

目録作成演習ソフトウェアの使い方

第1版 (Ver.1.0 対応版)



中園 長新

1. 目録作成演習ソフトウェアの位置づけ

1.1 はじめに

本書は、筆者が開発したソフトウェア「目録作成演習」(以下、演習ソフトウェア)の使い方を簡単にまとめたマニュアルである。第1版は、演習ソフトウェアの Ver. 1.0 に対応している。

演習ソフトウェア「目録作成演習」は、その名称の通り、大学における演習で活用することを意図して作成したものである。そのため、実際の図書館業務で利用されるシステムとは、外観や機能が大きく異なっている。当然ながら、本ソフトウェアを使って実際の図書館業務を行うことはできない。実装されている機能は一部分にとどまっているし、後述する通り、一部のデータは正確なものではなく、ダミーデータが出力される。

しかしながら、図書館で本物のシステムを使う前に、演習用の簡便なものを使ってみるという経験は、司書課程を履修している学生にとって少なからず意義があるものと考えている。パソコンの画面に表示される入力フォームに情報を入力し、ボタンを押すことでその情報が整形されて出力される。パソコンの多機能性を考えればさほど複雑なことをしているわけではないのだが、その当たり前の動作が当たり前にできること、そして、それを自分自身が実現していることを通して、「大学での勉強」と「図書館現場での実務」とのつながりを感じてもらえれば幸いである。

1.2 免責事項

演習ソフトウェア「目録作成演習」は、大学での演習で活用することを目的として作成されている。そのため、下記のような特徴があり、実務には全く適さない。

- データの一部(管理用の番号など)については、適当なダミーデータを出力する場合がある。
- すべてのデータを出力しているわけではなく、演習で確認してほしいデータを中心に抜粋して表示する場合がある。
- 入力されたデータの正確性はチェックしていない。間違ったデータが入力されても、間違ったまま出力される。

なお、本演習ソフトウェアで出力されたデータを使って生じたいかなる損害についても、作成者は責任を負わない。特に、出力結果をレポート等に利用する場合は、自己責任で利用すること。

2. 演習ソフトウェアの動作環境と実行までの準備

2.1 動作環境

演習ソフトウェア動作環境は、下表の通りである。なお、Windows 8 / 8.1 については、デスクトップモードで動作する。

OS	Microsoft Windows Vista / 7 / 8 / 8.1 ※いずれも日本語版 ※ 32 ビット版と 64 ビット版のいずれでも動作可能
CPU、メモリ	上記 OS が動作するもの
ハードディスク	最低 5MB 程度、かつ、上記 OS が動作する空き容量
ディスプレイ	800 × 600 以上の解像度
ネット環境	不要 (ただしサポートページの閲覧時は必要)
必要ソフト	.NET Framework 4 または 4.5

2.2 .NET Framework について

演習ソフトウェアを実行するためには、パソコンに「.NET Framework (ドットネット・フレームワーク)」がインストールされている必要がある。これは Microsoft 社が開発しており、多くの Windows パソコンには標準でインストールされている。ただし、パソコンによってはバージョンが異なる可能性があるため、2.3 で示す方法に従って事前に確認してほしい。

2.3 実行までの準備

演習ソフトウェアはインストール不要で、ダブルクリックすればすぐに実行できる。ただし、実行するためにはあらかじめパソコンの環境を整えておく必要があるため、下記の手順に従って環境を確認してほしい。

(1) 演習ソフトウェアを入手する

演習ソフトウェアは、下記 URL からダウンロードできる。ダウンロードの際にはユーザー名とパスワードを求められるので、授業の担当教員から指示されたユーザー名とパスワードを入力すること。このページから ZIP 形式で圧縮されたソフトウェア一式をダウンロードする。

ソフトウェア入手先 URL <http://zono.e4serv.net/soft/cataloging14.html>

(2) 解凍する

ダウンロードした ZIP 形式のファイルを解凍し、パソコン内の任意の場所に置く。

(3) ファイルを確認する

ZIP ファイルを解凍すると、下記のようなファイルが生成される。なお、各ファイルの「.」以下のアルファベットは拡張子と呼ばれ、ファイル形式を判別するための記号である。拡張子はパソコンの設定によっては表示されない場合がある。

[フォルダ]
└ cataloging14.exe
└ [Samples] フォルダ
└ [DotNet] フォルダ
└ check_dotnet.cmd
└ dotNetFx45_Full_setup.exe
└ [Manual] フォルダ
└ Readme.pdf
└ Readme_EPUB.epub

- | | |
|-----------------------------|---|
| • cataloging14.exe | 演習ソフトウェア本体 |
| • [Samples] フォルダ | 演習用サンプルデータ |
| • check_dotnet.cmd | .NET Framework 確認用プログラム |
| • dotNetFx45_Full_setup.exe | .NET Framework のインストールプログラム
(Microsoft 社による提供) |
| • Readme.pdf | PDF 版マニュアル (このファイル) |
| • Readme_EPUB.epub | EPUB 版マニュアル |

(4) .NET Framework のインストール状態を確認する

「DotNet」フォルダ内にある「check_dotnet.cmd」をダブルクリックして実行する。黒いウインドウが開き、インストールされている.NET Framework のバージョンが自動的にチェックされる。

この確認用プログラムを実行した結果、「演習プログラムは正常に実行できます」と表示された場合は、演習の準備が整っているので、(5)を飛ばして3章に進み、実際の演習に取り組んでほしい。

「演習プログラムを実行するためには指定された.NET Framework のインストールが必要です」と表示された場合は、下記の(5)を実施し、パソコンの環境を整える必要がある。

(5) .NET Framework をインストールする

「DotNet」フォルダ内にある「dotNetFx45_Full_setup.exe」をダブルクリックして実行する。.NET Framework をインストールするためのプログラムが起動するので、指示に従ってインストール作業を実施する。なお、インストール時にはパソコンがインターネットに接続されている必要がある。

インストール完了後は、(4)を再度実行し、環境が整ったことを確認してほしい。

3. 演習ソフトウェアの実行と演習

3.1 演習ソフトウェアの実行

解凍により生成されたファイルのうち、「cataloging14.exe」をダブルクリックして実行すると、演習ソフトウェアが起動する。エラーが発生する場合は、2.3 を再度確認してパソコンの環境を整えること。

3.2 演習ソフトウェアの画面構成

演習ソフトウェアの画面（ウインドウ）は図1に示す通りである。ウインドウ上部にはメニューがあり、主にファイル操作の際に用いる。ウインドウ中央部は目録データを入力する部分であり、書誌記述部分と標目指示部分に分かれている。ウインドウ下部に並ぶボタンは、入力したデータをどのような形式で表示させるかを決定するためのボタンである。

なお、表示ボタンのさらに下には、ヒントを表示するエリアがある。一部の入力項目については、入力欄の上にマウスカーソルを乗せると、このエリアにヒントが表示される。すべての入力項目についてヒントが用意されているわけではないが、演習の参考にしてほしい。

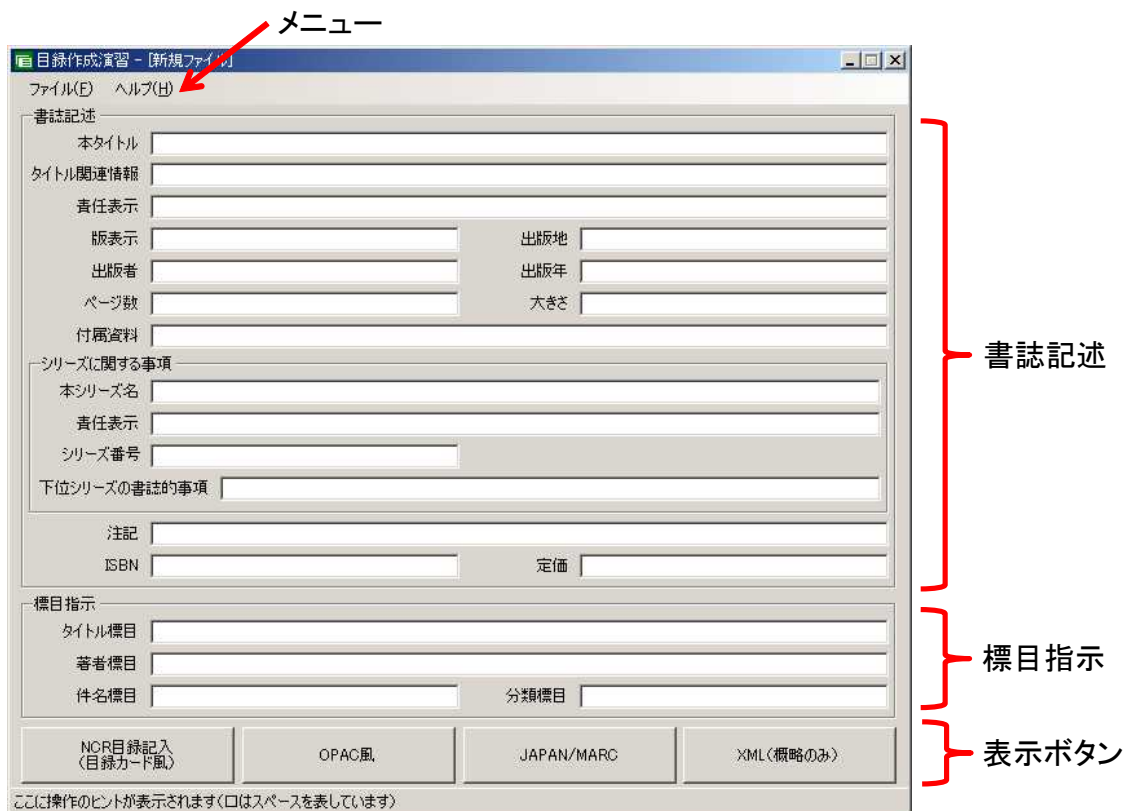


図1. 演習ソフトウェアの画面構成

3.3 サンプルデータで機能を体験してみる

演習ソフトウェアでは独特の入力規則に従ってデータを入力する必要があるため、慣れるまでは使いづらく感じると思われる。最初はソフトウェアに付属のサンプルデータを使って、動作を確認するとよいだろう。

メニューの [ファイル] から [開く] を選択すると、ファイルを開くためのダイアログボックス (小さなウィンドウ) が開く。演習ソフトウェアと同じフォルダ内にある [Samples] を選択し、その中にあるサンプルデータを選択して [開く] をクリックすると、入力済のサンプルデータが読み込まれる。

この状態でウィンドウ下の表示ボタンを押すと、それぞれの形式に従って整形されたデータが別ウィンドウで表示される。入力データを自由に修正し、その修正が表示にどのように反映されるか確かめてみよう。

3.4 ゼロからデータを入力してみる

サンプルデータで演習ソフトウェアの使い方を理解したら、いよいよ自分自身で目録を作成する演習をやってみよう。

まず、サンプルなどの演習データが入力されている場合は、消去して初期状態に戻す必要がある。メニューの [ファイル] から [新規作成] を選択すると、入力済のデータが入力欄から消去される。なお、このとき保存していないデータはすべて失われるので、必要な場合は後述する方法でデータを保存しておくこと。

入力欄が初期状態に戻ったら、各欄にデータを入力していく。該当するデータが存在しない欄は空欄のままでもよい。演習ソフトウェアは、最低 1 箇所のデータが入力されていれば、何らかの結果が表示されるように設計されている。

データを入力したら、ウィンドウ下の表示ボタンを押すと、それぞれの形式に従って整形されたデータが別ウィンドウで表示される。なお、表示は入力途中でも可能なので、データ入力と表示を繰り返しながら入力してみてもよい。

3.5 出力データをレポート等に利用する

表示ボタンを押すと、整形されたデータが別ウィンドウに表示される。このウィンドウには [クリップボードにコピー] というボタンがあり、これを押すと出力データが Windows のクリップボードにコピーされる。

コピー後、メモ帳や Word 等を起動し、[貼り付け] を選択すると、出力データがそれらのアプリケーションに貼り付けられる。出力データはテキスト形式 (プレーンテキスト) でコピーされるため、ワープロソフトをはじめとする様々なアプリケーションに貼り付けることができる。

なお、「NCR 目録記入 (目録カード風)」については、目録規則に従ってスペース等が入力されていることがわかりやすいように、空白を「□」で表示する機能がある。必要に応じて、空白表示を切り替えてからコピー操作を行うとよい。

3.6 各入力欄の入力規則

本演習ソフトウェアは、JAPAN/MARC の記録方法におおむね準拠した入力規則を採用している。各入力欄は次のように入力すること。特記すべき入力規則がないものに関しては空欄になっている。なお、説明文中ではスペース（空白）を「□」で表現しているが、実際に入力する際は「□」ではなく、スペースを入力すること。

本タイトル	
タイトル関連情報	
責任表示	責任表示と役割表示の間は「□」、役割が異なる責任表示は「□ ；□」で区切る。 例) 八洲太郎, □八洲花子□著□；□神奈川二郎□訳
版表示	付加的版表示は「, □」で区切って入力する。
出版地	空欄にすると [出版地不明] となる。
出版者	空欄にすると [出版者不明] となる。
出版年	空欄にすると [出版年不明] となる。
ページ数	必要に応じて「p」や「枚」等も入力すること。
大きさ	単位 (cm 等) も入力すること。なお、センチメートルはアルファベット半角小文字で「シーエム」と入力する。
付属資料	大きさや数量は必要に応じて括弧で補記する。 例) 別冊□ (42p □；□ 21cm)
本シリーズ名	
責任表示	
シリーズ番号	
下位シリーズの書誌的 事項	下位シリーズの書誌的事項に責任表示やシリーズ番号が含まれる場合は、この欄に含める。 例) シリーズ図解□／□横浜蘭□監修□；□ 3 巻
注記	複数の注記を記録する場合は、注記の間を半角の「¥ ¥」で区切る。
ISBN	
定価	通貨の単位を表す記号 (¥ 等) も入力すること。
タイトル標目	複数のタイトル標目を記録する場合は、標目の間を半角の「¥ ¥」で区切る。
著者標目	複数の著者標目を記録する場合は、標目の間を半角の「¥ ¥」で区切る。
件名標目	複数の件名標目を記録する場合は、標目の間を半角の「¥ ¥」で区切る。
分類標目	複数の分類標目を記録する場合は、標目の間を半角の「¥ ¥」で区切る。ただし、分類標目は最大 10 個までとする。

3.7 データを保存する／開く

入力したデータは保存することができる。メニューの [ファイル] から [保存] を選択するとファイル保存のウインドウが開くので、保存場所とファイル名を指定して保存する。保存したデータは「.mokuroku」という拡張子が付与される（パソコンによっては拡張子は表示されない）。

保存したデータは、メニューの [ファイル] から [開く] を選択すれば、演習ソフトウェアに読み込むことができる。なお、Windows のエクスプローラなどで保存したデータをダブルクリックしても開くことはできないので注意すること。